

東京外かく環状道路（関越～東名） 環境モニタリング調査（大気質・粉じん等）の結果について（お知らせ）

東名JCT（仮称）周辺 大気質・粉じん等調査

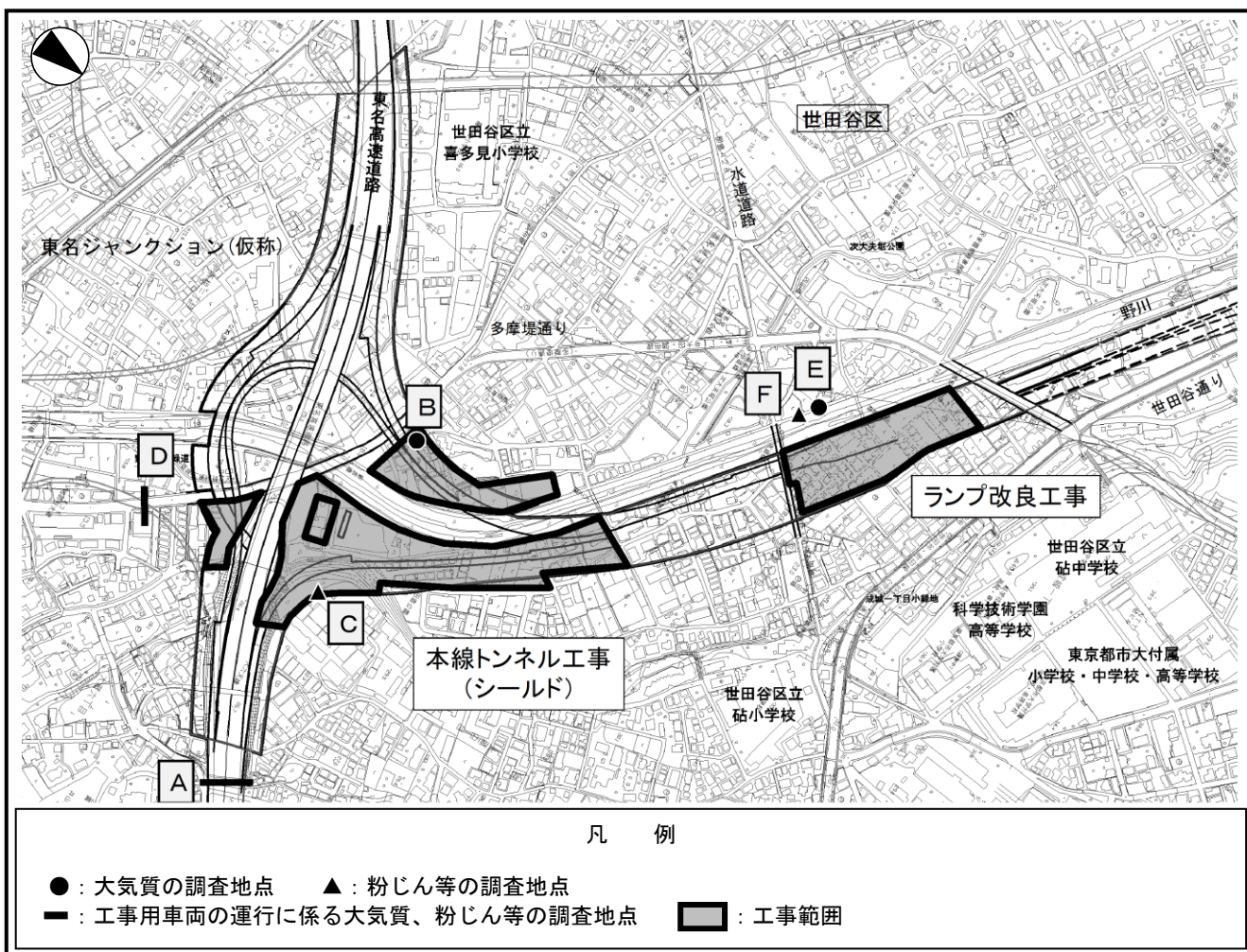
令和2年6月～令和2年8月に実施した大気質調査の結果についてお知らせします。

◆調査期間

夏季

- 大気質：令和2年6月22日（月）～6月28日（日）（7日間）
令和2年8月19日（水）～8月25日（火）（7日間）
令和2年8月25日（火）～8月31日（月）（7日間）
粉じん等：令和2年6月15日（月）～7月15日（水）（1ヶ月間）
令和2年7月7日（火）～8月6日（木）（1ヶ月間）

◆調査位置図



◆問い合わせ

担当窓口：国土交通省関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 計画課
電話番号：0120-34-1491（外環専用フリーダイヤル 平日9：15～18：00）

◆調査結果

○建設機械の稼働に係る大気質【二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）】

- ・二酸化窒素（NO₂）については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- ・浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査時期	調査日	B			調査日	E		
		NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
		1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値		1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値
夏季	8月19日	0.019	0.021	0.063	6月22日	0.008	0.016	0.024
	8月20日	0.013	0.020	0.029	6月23日	0.011	0.017	0.028
	8月21日	0.015	0.021	0.029	6月24日	0.015	0.025	0.037
	8月22日	0.011	0.029	0.041	6月25日	0.015	0.019	0.047
	8月23日	0.011	0.017	0.027	6月26日	0.018	0.035	0.050
	8月24日	0.016	0.020	0.042	6月27日	0.014	0.046	0.072
	8月25日	0.016	0.018	0.034	6月28日	0.008	0.021	0.044
	期間内平均	0.014	0.021	—	期間内平均	0.013	0.026	—

○工事用車両の運行に係る大気質【二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）】

- ・二酸化窒素（NO₂）については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- ・浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査時期	調査日	A			調査日	D		
		NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
		1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値		1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値
夏季	8月25日	0.012	0.020	0.034	8月25日	0.017	0.020	0.032
	8月26日	0.016	0.021	0.030	8月26日	0.021	0.022	0.034
	8月27日	0.012	0.017	0.027	8月27日	0.016	0.018	0.045
	8月28日	0.008	0.018	0.036	8月28日	0.012	0.017	0.030
	8月29日	0.006	0.022	0.066	8月29日	0.010	0.019	0.032
	8月30日	0.005	0.015	0.023	8月30日	0.007	0.013	0.026
	8月31日	0.010	0.019	0.030	8月31日	0.015	0.019	0.036
	期間内平均	0.010	0.019	—	期間内平均	0.014	0.018	—

参考

◆環境基準

二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20 mg/m³以下であること。

※環境基準との評価は、『道路環境影響評価の技術手法』に基づいて、1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、低い方から数えて98%目（若しくは高い方から数えて2%目）にあたる値を環境基準と比較することにより行います。

○建設機械の稼働に係る粉じん等

- ・粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	C	F
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	夏季	1.9	4.1

○工事用車両の運行に係る粉じん等

- ・粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	A	D
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	夏季	1.9	2.4

参 考

◆環境基準

降下ばいじん量に環境基準はありません。

◆参考値

降下ばいじん量：20t/km²/月以下

※環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標*を参考とした20t/km²/月が目安と考えられます。（「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」より引用）

なお、計測されるばいじん量は建設機械以外から発生するものも含まれるため、環境影響評価では、上記基準を達成するよう、建設機械の稼働の寄与分を10t/km²/月以下とするよう評価を行っています。

*「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年10月3日、環大自第84号）